

保護者の皆様

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果(御浜町)と今後の取組

御浜町教育委員会

平成 29 年 4 月 18 日(火)に実施しました「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」における結果の概要は以下の通りです。

1. 調査結果概要

(1)調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況を改善等に役立てる。
- ③上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査実施日

- ・平成 29 年 4 月 18 日(火)

(3)調査対象(御浜町)

- ・小学校第 6 学年の児童 68 人、中学校第 3 学年の生徒 82 人(欠席者等を除く)

(4)実施内容

①教科に関する調査

- ・小学校 6 年生:国語 A、国語 B、算数 A、算数 B
- ・中学校 3 年生:国語 A、国語 B、数学 A、数学 B

※A:主に「知識」に関する問題 B:主に「活用」に関する問題

②生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査・学校に対する調査

2. 教科に関する調査の結果

平成 29 年度の結果は、小学校ではすべての科目で全国平均を若干下回る結果となり、今後は改善に向けて、「授業力向上支援事業」として町全体で取り組んでいるペア学習やグループ学習による『主体的・対話的で深い学び』を充実させていく必要があります。また、A 問題に課題も見られることから、知識に関する問題への取組をより一層丁寧に行う必要があります。

中学校については、国語では全国平均を下回る結果となりましたが、平成 26 年度調査時(現中学 3 年生が当時小学 6 年生)と比較すると、全ての実施教科で全国との差を 5 ポイント以上縮めており、特に数学 B では全国平均を上回り大幅に改善が図られています。

中学校での改善傾向が見られたことから、「授業力向上支援事業」により、各学校に招聘している大学の先生方からは、「すべての小中学校での取組が子どもたちの学びを支え、成果につながっている」との評価をいただきました。これからも、現在の取組の充実を図り、更なる改善に努めていきます。

(1)小学校

- ①国語 A では、漢字を読む「指示」の正答率が 100%であったように、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと」の正答率は高かった。また、「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」の正答率も高かった。しかし、「漢字を正しく書くこと」の正答率が低く、特に「参加たいしょう」のような同音異義語となる漢字を正しく書くことができておらず、ただ単に漢字を覚えるのではなく、意味や使い方を考えながら覚えるといった取組が必要である。国語 B については、「目的や意図に応じ、必要な内容整理して書く」や「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」の正答率が低かった。
- ②算数 A では、「 $5 \div 9$ の商を分数で表す」問題で特に正答率が低く、商を分数で表すことに課題があり、また、『商』といった算数的用語の確認も必要である。算数 B では、「数と計算」の領域の正答率が全国平均を上回り、特に「2 けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く」ことの正答率が高かった。一方で、示された式の中の数が表す意味を書き、その数がどこに入るかを選ぶといった、「示された式の中の数が表す意味を表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する」ことや「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる」の正答率が低かった。

(2)中学校

- ①国語 A では「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」の正答率が高かった一方で、「文脈に即して漢字を正しく書く」や「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」などは正答率が低かった。国語 B では、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」「集めた材料を整理して文章を構成する」といった問題に課題がある。
- ②数学 A では、『図形』領域の正答率が県、全国を上回った。しかし、一元一次方程式や二元一次方程式、度数分布表などの問題に課題がある。数学 B では、「与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる」は正答率が高かった。しかし、「三角形の合同を利用して証明する」の記述式問題の正答率が低かった。

各教科における平均正答率(小学校)

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
御浜町	73%	56%	76%	45%
三重県	74%	57%	77%	45%
全 国	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

各教科における平均正答率(中学校)

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
御浜町	75%	66%	65%	50%
三重県	77%	71%	65%	47%
全 国	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%

※全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）（平成 29 年 3 月 29 日付文科省）に「序列化や過度な競争を招かないよう、都道府県・指定都市の一覧での公表は整数値で行う」とされ、市町教育委員会、三重県の正答率は整数値で通知を受けています。

3. 生活習慣や学習習慣等についての調査結果 【 】内の数値は全国の平均値

(1)小学校児童質問紙調査より

回答の割合が全国平均を上回っている項目

○家で学校の宿題をしていますか

・「している」「どちらかといえばしている」と回答 … 100.0 % 【96.9 %】

○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答 … 95.6 % 【85.1 %】

○今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題をどのように解答しましたか

・「すべての書く問題で最後まで書こうと努力した」と回答 … 88.2 % 【77.2 %】

○今回の算数の問題について、言葉や数、式を使ってわけや求め方を書く問題がありましたが、それらの問題をどのように解答しましたか

・「すべての書く問題で最後まで書こうと努力した」と回答 … 85.3 % 【69.9 %】

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○自分で計画を立てて勉強をしていますか

・「している」「どちらかといえば、している」と回答 … 50.0 % 【64.5 %】

○学校の授業の予習をしていますか

・「している」「どちらかといえば、している」と回答 … 27.9 % 【41.0 %】

○学校の授業の復習をしていますか

・「している」「どちらかといえば、している」と回答 … 36.7 % 【53.8 %】

○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

・「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」 … 27.9 % 【40.3 %】

(2)中学校生徒質問紙調査より

回答の割合が全国平均を上回っている項目

○地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除きます）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか

・「よくある」「時々ある」と回答 … 35.4 % 【23.6 %】

○読書は好きですか

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答 … 86.6 % 【69.9 %】

○数学の勉強は大切だと思いますか

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答 … 93.9 % 【81.1 %】

○数学の授業の内容はよく分かりますか

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答 … 84.1 % 【69.4 %】

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○調査問題の解答時間は十分でしたか

- ・「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答 … 国語 A 85.4 % 【94.0 %】
国語 B 70.7 % 【86.3 %】
数学 A 79.3 % 【89.5 %】
数学 B 64.6 % 【76.7 %】

○土、日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾で勉強をしている時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- ・「1時間以上勉強している」と回答 … 48.7 % 【69.4 %】

○今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

- ・「最後まで書こうと努力した」と回答 … 20.8 % 【37.3 %】

○400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

- ・「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」と回答 … 20.8 % 【37.3 %】

4. 考察

質問紙調査結果では、「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均を上回り自己肯定感や自尊感情が養われていることがうかがえます。自己肯定感や自尊感情と学力との相関関係はこれまでも指摘されていることから、これからも継続した取組を進めていきます。小学生では、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいか」、中学生は「地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除きます）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」に対して肯定的な回答をした割合が全国平均を上回っているなど、子どもたちが大人と交わることに對して肯定的な見方をしている表れで、今後も大切にしていける一つの視点であると考えます。

一方、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という質問に対して、「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」と回答した割合が、児童生徒ともに全国平均を下回っています。また、解答時間が十分であったと感じている生徒が少ないことから、解く速さも含め、記述式問題に課題が見えたことと同様に、文を書くことへの苦手意識の克服に向けて、改善を図る必要があります。

「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対して、小学生は76.5%【68.2%】、中学生が67.1%【64.8%】が肯定的な回答をしており、ともに全国平均を上回っています。町が目指す次期指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学び」に向けた、ペアやグループを取り入れた学習が子どもたちの中に浸透していることが分かります。

家庭学習については、「平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という項目で、『1時間以上』と答えた小学生が44.2%【64.4%】、中学生が31.7%【34.2%】、「土日」では、小学生が47.1%【57.3%】、中学生が48.7%【69.4%】となり、全国平均との差は大きく、小学生が平日で-20.2ポイント、土日で-10.2ポイント、中学生が平日で-2.5ポイント、土日で-20.7ポイン

トです。また、計画的な学習や予習、復習などは全国平均よりも下回っており、小学生は宿題への取組に対しては肯定的な回答が 100%であることから、各学校での平日と土日の課題の出し方を工夫するなどし、小学生も中学生も学習に対する量的課題の克服と計画性を持った学習に向けた取組を進める必要があります。

また、学校質問紙調査より、「近隣等の小学校と中学校で教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組」や「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加する取組」について全国との差が大きいことから、小学校と中学校の連携を強化し、保護者や地域とのさらなる連携を図る必要があります。

5. 今後の取組・改善方策

【御浜町教育委員会】

- (1)調査結果等を活用し、指導方法の検証・改善を図ります。
- (2)各学校での校内研修等へ指導主事等を派遣し、指導方法の改善を進めます。また、情報通信機器を活用し、授業改善に努めます。
- (3)各学校の先進校視察や、大学教授等の外部講師を招聘した授業研究を行い、教員の授業力向上を支援します。
- (4)全国学力・学習状況調査の結果から課題を克服するため、県の授業改善サイクル支援ネットを活用したワークシートを授業や家庭学習で活用できるように支援します。
- (5)三重県教育委員会が実施する「みえスタディ・チェック」に全校で取り組み、授業改善に活かします。
- (6)「家庭読書の日」(毎月第3日曜日)を周知するとともに、学校・家庭と連携した読書活動を推進していきます。
- (7)各学校でのスマートフォン等の機器の適切な使い方を含むネットモラル等の研修会の開催を支援します。
- (8)地域の人材・施設の活用にむけて、学校評議員や学校運営協議会との連携を図ります。

【各小中学校】

各校独自に調査結果を分析し、課題や成果を明らかにし、全教職員がその課題を共有し、改善に向けた具体的な取組を行っていきます。それぞれの結果については、後日、各校より保護者の皆様に報告がございませう。